昭和14年5月1日（月）

朝の間靄に蔽われ冷氣、次第に雲霽れ快晴となる。中殿町に据置期間内払戻しの名義人を訪ぬ。肩書き人は居らぬとのことに空しく飯局。此の朝50銭巖に渡し、鶏卵を愛子に求めしむ。六時半国債残高電報報告して飯宅。野口氏より再び夏蜜柑貰ふ。子供に遣る為、仕舞い置く。風呂沸き赤坊を入れたり。澄子赤坊の方に寝、巖三畳に寝る。月影明るかなり。赤坊入浴の為か、夜中に余り泣かず。澄子、寝めたことと嬉し。

昭和14年5月2日（火）

晴れ。朝食後、子供を伴れ巖来る。蜜柑を与ふ。昨書きたる儘投函を洩らしたる中尾氏宛手紙、今朝投函。小包尺度を定規とし集配時刻表を作成。保険延滞料徴収方の打切り日を、電話にて上原主事に質す。五時三十分病院を訪ふ。巖来て居る。買物、玉葱を頼まれたる由。夏蜜柑を剥いて呉る。其の儘之を土産に持帰り、明朝子供等を喜ばせんとす。巖は余より先に帰る。入浴す、赤坊も入れたり。信子機嫌斜め、泣くこと甚だし。何日もより早く上ぐ。

昭和14年5月3日（水）

晴れ。昨の夏蜜柑を子供に与不。朝は着物を着せて遣る。巖は余より早く出発す。澄子大分疲れたらし。午後0時40分報告物到着、之を調製し三円即時払いして出発。南新町より徒歩、五時前飯宅。久子買物に行く処。先月一杯にて会社を辞したる由。甚十郎氏不来。夕餉夏蜜柑頂く。四十五日月蝕。

昭和14年5月4日（木）

曇り、昨夜十時過ぎ、月蝕は月明にて九州各地は勿論、東京でも観測し得られたる由。六日兵隊泊まり、余の家は二人宿泊の由。蒲団がない家多く、恐慌を来し居る向き不少。午後二時より郵便局に年金九円受取り、福永氏を訪ふ。病氣全快し居らる。小為替再度証書発行の件、六通共皆受取り居る。事情を咄し料金30銭受取る。猶午後四時頃、取組みし分二通あり。之に対しても調査を試むべき趣に付き、拾銭預かり、市場を一巡販宅。中尾氏此の朝十時来訪。久子スシを新柳町に求め、十一時三十分頃来宅、大急ぎにて進め、道子をして駅まで送らす。バス出発後徒歩、電車も容易に来たらず、駅に着し時は四十分の発車時刻を経過しあり。汽車は既に到着し居るも発車せず。兵士駅前一杯整列し、漸く迂回して駅内に入り、切符を買う時間も頗る手間取り、道子は気が気でなく、それでも間に合うて出発せりと云ふ。余も安堵せり。此の朝、申又洗濯し夕方まで乾く。

昭和14年5月5日（金）

朝曇り少雨、午後より霽れ快晴となる。久子をして蓄音器を柳原先生に届ける様注意、然るに貸主は他に転貸し、今直に取上げ兼ねぬる由。此夜久子活動写真に行きし様子、明日兵隊泊まると云ふのを、色々準備初む。井上某氏死去の通知あり。六日午後四時、下祇園町順正寺に葬るとあり。

昭和14年5月6日（土）

晴れ、午前九時柳原先生より本日、真の郷休会の通知あり。猶昨日分記載を洩らしたるが、峯氏の照会に対し

返信発送。水筆を洗い西の内紙を利用したること、曩に峯氏より照会と同様の体裁を以てす。此日午前九時半、天神町に至り十七銀行支店を尋ね、更新す。更に呉服町に野村生命支店にて、道子の掛金払込みを為さんとす。直接本社に送金せよと云ふ故、箕島局に至り手続きす。榊3銭、黒胡麻9銭、封筒人形印60求め帰宅。兵隊さんの来る時刻が不明の為、準備上種々の手違いあり。余午後三時洋服にて、下祇園町順正寺に赴くバスに乗る。少し早めに行きし為、受付見えず。桑原氏斡旋し居るも、受付は別に其の人ある如く見ゆ。三時三十分受付者来、乃ち香奠一円差出す。而して寺院に向かつて左は会葬者、右は近親居並ぶ。式始まる前、桑原氏余を招く。別室に松尾氏あり。弔辞を作れと云ふ。大急ぎにて作りたるも、此の時既に焼香を終え次々販り初む。仍って弔辞を霊前に捧げて焼香して販る。再びバスに乗る。此日二度水浴。兵隊不来、待たず夕飯を済ます。幾度道子外出、様子を窺ひしか分からず。十一時近く漸く到着、風呂に案内し、夕食の際は酒を出す。二名の内一名は酒を嗜まず、ココアを出す。酒も五合殆ど独りにて平らげたり。一時床を展べ、我等は二時寢床。

昭和14年5月7日（日）

曇り、雨模様。国旗掲揚昨の如し。四時半余起きると、間もなく道子起床、炊事にかかる。六時兵隊さんも起きて来る。六時三十分朝食。七時前出発、道子久子送って天神森まで行く。我等の兵隊さんは一番早き方、隣家の二名は十余分遅れて至り、甚だしきは七時半過ぎになりしものありて、大分叱られ居たりと云ふ。今日出発の勇士は高山隊内田憲助、上杉三郎二名なり。

昭和14年5月8日（月）

晴れ、久子中津に行きたる由。十一時近く東亜博を見に行く。平尾を経て女子商業学校前を通り、電車一区高等学校前下車。会場大濠公園に至り入場、四時間半を費やす。五月十日までの期日を一週間延期となる。一度は見る価値あり。五時帰宅、夕食。昨日同様素麺。此日市場休業。夕方曇り空となる。販りに蜜柑拾銭分求め来る、品質悪し。

昭和14年5月9日（火）

朝素麺頂き、七時二十五分出発。徒歩、停車場に至る。八時に十分前着。新聞6求む。此の朝澄子帰還の途に就く。永江氏門司親戚死去、会葬の為、此の朝出発。是永氏七時まで居残る。40銭弁当代として交付。快晴、愛子は四五日間退院出来ぬらし。

昭和14年5月10日（水）

快晴。切手請求に野口氏行き、葉書は四時頃巖持来る。便覧訂正、午後二時まで費やす。衛藤君来、藤子氏大連某病院事務員として勤務し居る由。近所の御婆さんより菓子貰ひ両女に頒与す。戦地に渡り働き居る者の妻女臨局。七拾円送金したる筈なるに、手紙も到着せず、取調べ呉れと申越す。余気の毒に思ひ、別に手紙を書き、其の夫君への便り中に入れ遣はす。午後六時三十分夕飯。赤坊（信子）を負ひ智子を抱き、細川病院かかり行き。巖、両児を自転車に括りし余より先に到着せり。序でに目方を計るに、智子2、200、和博4、500、悦子4、080匁。再び赤坊を負ふて販る。巖余より遅れて来る。

此の間水浴。蚊帳吊る、隣り三畳に久子両児と寝る。此日豊田校幼稚園、尋常一二年遠足。永江氏坊ちゃん二年生、別府行き、三時頃飯宅。

昭和14年5月11日（木）

曇り、雨模様。永江氏昨夜飯宅。行橋に一泊、子供連れ来る。急に賑やかになる。三余女学校長に納まり居る。山本利夫氏より振替用紙を入れて、先日耶馬溪楼画選紙に対する寄付額送金方申越す。一円送付す。降雨、和傘借用飯宅。夜夕食後、巖病院を見舞ふ。九時三十分頃飯る。信子発熱、はしかなら冷やせぬ、風邪なら冷やせばよし、近頃はしかが流行し居る為、当惑す。但し元氣衰えず、此の点、稍安神せしも、明朝まで良く模様を見ることにし寝に就く、十時。

昭和14年5月12日（金）

夜半より降雨、歇まず。村田半太郎氏より妻女四十六才を以て死去の報あり。一月十一日久留米九州医専付属病院に入院、腸癌と診断されX光射治療八十日、効果なく四月十三日手術、五月四日午前七時死去。十日飯飯、十一日より出勤の通告に接す。三円香奠。巖の保険料27, 27の内、二十円余出し、残りは巖に出させ、巖は愛子分40円弱、和博分24円余にて百円即時払い、余は23円即時払いの上、掛金に夫れ々々充当す。午後より曇天となる。午後五時病院に行き、信子熱発の旨話す。愛子階下に行き洗面して改めて成行きを質す。本朝平常に復せし旨語る。明日退院する旨申出でたり。蓋し階下に行きし際、院長に咄し許可を得たるものか。六時辞去、夕食。巖に本日即時払いの残金28円3銭交付す。此日

中尾氏来翰。

昭和14年5月13日（土）

九時頃より、次第に霽れかけたるも、晴天とはならず。0時30分現在員報告を十五日まで発送方通牒あり。大急ぎにて報告を済まし、発送を永江氏に委嘱す。一時二十分出發。小倉にて晴れ、後再び曇り。五時飯宅。夕食後髯剃り七時半、星野先生かかり行く。八時着、栗原氏あり。其の後森氏来らる。柳原先生は九時過ぎ見ゆ。広島の人を送って来られたる由。栗原氏の富田株式店主の人となりを褒め、如何なる子供の召使いに対しても、様付けにする点と肝を立てぬ点等話し、洵（まこと）に参考となる。十一時過ぎ閉会、飯宅せしは十二時なり。冷氣、蒲団を取出す。蚊は居らず。井上氏宅より菓子折、十七日香奠返しさる。

昭和14年5月14日（日）

曇天、時々陽射す。概して冷氣。手紙書きす。外出せず。早く寝に就く。夏蜜柑夕飯まで没有。澄子蒲団綿打直しの為、玄関二畳に積み重ね。業者来たらず、徒に場所を塞ぐ。

昭和14年5月15日（月）

朝快晴、後曇りたるも概ね晴れ。トンビ乾したり。四時頃より快晴。夏蜜柑求め来る。手紙駒次より来る。五郎満州医大を諦め、善隣高商と岩手医専に志願。前者は876名の志願者の内二番にて入学、四月一日より試験、六日発表、四月十六日より始業、学用品其の他にて350円を要する由。医専は七日より試験、二十日発表故、後

者に趨（おもむ）けば350円は棒に振ることとなる、それで五郎は後者を断念せる由。哲夫は今年六年を一番にて卒業、中学の試験を受けしも體重標準に達せず不合格となる。千江子は勝常校に転出、家より通勤し居ると。昌江より打ち豆とゼンマイとを送り呉れとのこと、目下潰し居る旨申越す。昌江が凶々しくそんなこと云ふことよと呆れざるを得ず。況や自分が食べたいからとありては、一層不都合と思ひぬ。駒次よりの通知に、亡きトメ在世中、即ち七年三月までの元利金2880円として公正証書を作成し、本月より年五分の利息を付すると?に通告せり。但し佐世保に送金の430円は七年後、本年四月までの利子と相殺とす。

昭和14年5月16日（火）

朝晴れ、次第に曇り。巖より澄子への手紙に、十三日愛子退院の由。久子今暫く助力ありたき旨申越せりと云ふ。午後五時夕食。隣家の娘さんより散歩申出づ。夕食後道子外出。余は澄子に理髪して貰ひ、更に剃刀を当てて貰ふ。襦衣（はだぎ）を夏着に改む。

昭和14年5月17日（水）

快晴、珍しき好天気。七時十分出発。同三十分、博多駅着。新聞求む。局に至れば村田氏より香奠返しとして落雁菓子、小包にて送付越しあり。三局員に等分に頒つ。五時飯る。愛子寝て居る。赤坊は三疊に置かれ、股の間爛れたるを陽に当てて居る由。巖説明す。此日数回升屋旅館の電話に、上原君相手に疑義を質す。セル衣着用、足袋洗濯されあり。

昭和14年5月18日（木）

後に降雨の予報に、曇天なるも和傘持参。三時頃より次第に降雨模様が変わる。朝より冷氣。此日招魂祭、国旗掲揚方注意され、退局時降雨。巖夕方盗聴調査の為外出。風呂沸き赤坊を入れる。茶飲まず。此日赤坊誕生日。

昭和14年5月19日（金）

快晴。満州国便覧訂正、振替事故整理。茶飲まず。巖釣魚、六時半頃販る。販宅後乳母車に赤坊を乗せ、和博、悦子を連れ一時間近く外出。悦子歩けなくなり、途中で泣かる。不得止、之を負ふて販宅。野口氏切手代金不適合、余販るに猶調査し居れり。乳母車吊り床破れたるものあり、間に合わせ座蒲団二枚敷き、赤坊を入れ一時間外出。野口氏帰り居れり。

昭和14年5月20日（土）

朝快晴、次第に幾多曇り、時に陽光射す。久子化粧、出発の準備す。愛子床しさを見せ、忙しき間に何呉れと久子を劬（つか）はり、帯など結ひて呉る。一時二十分出発、五分遅れて列車着。小倉に至れば、既に下り列車着し居る。五時販宅。髯剃り、七時半夏足袋を繕ひ四十分出発。「郷の集」に参会す。栗原、桑原、吉椿氏等来会。栗原氏夫人来たり居らる。結婚式順序を記せる掲示物を示され、先日も一組の挙式を行ひたる由話さる。栗原氏の医者との媒介、効を奏せる由、物語らる。神任せ云々味わうべき言葉あるを見る。十一時五十分帰宅。松尾氏見えず。

昭和14年5月21日（日）

朝晴れ、九時頃より薄曇り。北風強く冷氣あり。振替貯金澄子に借用分拾円支出、払出し書調製す。夕食後久子の友達と云ふ人来る、兩人一度外出、八時過ぎ再び来る。九時寢床。蚊居るも蚊帳吊らず。澄子蚤（のみ）に攻められ困り居る模様。昼縁破れ、蚤の繁殖に都合良くなりしものと思はる。

昭和14年5月22日（月）

薄曇りなるも温度上昇。中津愛子より久子が貰ひ来たりし丸型の菓子、及び昨久子の友と称する森永の同僚よりの洋菓子頂く（中津市寺町文明堂、中津饅頭）。天皇陛下には宮城広場に於いて、青少年学徒並びに教職員35500余名の分列行進を嚮（みそな）はせられたが、陛下には宮城に環御の後、午後一時半特に荒木文相を宮中に召しいせられ、表御座所に於いて拝謁仰せ付けられ、同日の成績に付いて御嘉賞の御言葉あらせられた上、畏（かしこ）くも全国の青少年学徒に対して、有難き勅語を賜った。青少年学徒に対して賜ったことは、今回が御はじめて、文相は聖恩の深厚なるに恐懼（きょうかん）感激しつつ御前を退下し、直に関係方面へ伝達の手続きを執った。

勅語

国本に培ひ国力を養ひ以て国家隆昌の氣運を永世に維持せむとする任たる極めて重く道たる甚だ遠し而して其の任実に繋がりにて汝等青少年学徒の隻肩に在り汝等其れ氣節を尚ひ廉軀を重んじ古今の史実に稽（かんが）へ中外の事勢に鑒（かんが）み其の思索を精にし其の識見を長じ執る所中を失はず嚮（むか）ふ所正を謬（あや

ま)らず各其の本分を恪守(かくしゅ)し又た修め武を練り質実剛健の氣風を振勵し以て負荷の大任を全うせむことを期せよ

此日午前十時宮城前広場に於いて、事変下に意義深く厳肅盛大に挙行された、陸軍現役将校配属令公布十五年記念全国学生生徒代表御親閲式は、全国北から南から、母校全学生生徒の榮譽を擔って上京した若人三万二千五百余名、輦轂(れんこく)の下に御親閲を拝受する光榮に、勇んで畏くも大君の御前、空に地にと若き盡忠の歩武を進め、清新澆刺軍国の絵巻を展開、さらに盛儀の後二大集団に分かれて隊伍堂々都大路を行進、明治神宮と靖国神社に参拝した。猶此の日全国の関係学校ではそれぞれ遙拝、訓話、神社参拝などを行って此の榮えの日を記念した。

此の盛儀はAKからラジオにて全国に放送した。東京は快晴らしきも当地は曇天。午後一時四十分松屋(切符10)に至り、更に玉屋に至る。途中下駄にゴムを打込んで貰ふ。新しき下駄を出して貰ひ、永く履く工夫もがなと気がつきたる為なり。30かかる。玉屋にて考慮の末、80にて夏帽を求む。最初六七円のマーシャル帽をと意気込みしも、不経済と知り、80銭にて二年継続せんと注意せしものなり。飯途市場より茶五合30にて求め、四時前着。セルを着用したるも割合に涼しげかりし。久子大学病院に富ちゃんを見舞いに行き、六時頃飯る。余より前に出掛けたるもの。可なり永くかかりし。此の夜九時過ぎ寢床。寢巻のみにて恰度よかりし。

昭和14年5月23日（火）

夜半降雨の様、道湿り居れり。じっとして居ても流汗、袷は御廃の要あり。午後四時より剃刀磨ぎ、六時髯剃りす。蚊帳乾かして貰ひ、夏服虫害に蝕したるを洋服屋に修理方依頼す。ズボン余自ら修理す。蚊一匹居り潰す。蚊帳吊りたるも邪魔になり間もなく取り去る。素麺多食。寝る前湯を飲みたるに、流汗瀧の如く腹加減悪し。

昭和14年5月24日（水）

午前三時下痢の徴候あり。起床一時間近く上厠。此の朝も素麺、昨夜の残り物を頂く。七時出発。途中降雨、電車に乗る。七時十五分着駅、新聞6、切手4、中尾氏へのもの駅前に投函。降雨は余り甚だしからず。御親閲式より販途中の生徒等を、駅待合室にて見る。昨夜当市に一泊の者か、小倉にて乗換えても多数の生徒あり。佐伯より奥なりと云ふ。中津駅前に迎えに来て居る中学生の堵列（とれつ）姿を見る。中津中学生も居りしこと、下車、此の光景を見て初めて知る。予て平川商店（福永氏）より再度、証書小為替券二枚（十五円づつ）交付を受く。一時頃湯を飲みたるに、四時頃再び腸痛上厠、此日初めて局の大便所に入ったり。夕餉の際、食を摂らず 販宅後一回便所行き。

昭和14年5月25日（木）

曇り、雹（ひょう）降る。温度急に下降したるも十分間計りにて、二時半頃より碧空、陽光を仰ぐ。今朝粥食に鶏卵半熟入れあり。巖早朝より釣魚に出掛く。昨夜荐（しき）りに地図を按じ居たりしが、柿坂まで自転車にて疾走せし由。梶沼喜六氏に再び資産調書を通知越し方依頼

せり。夕方食前風呂沸き入浴、赤子を入れる。流汗烈し。夕食時??腹加減恢復、粥食鶏卵は和博と悦子に分配す。和博更に欲しがる。食事中、巖販る。二百匁程魚獲る、之を焼くに一時間費やす。余も手伝ふ。

昭和14年5月26日（金）

朝より快晴、粥食。給料交付2, 50。是永氏欠損金の内半額補填しやる。販れば道子より葉書、中津饅頭25包み16個持参せよと。巖此の夕、寺町文明堂に注文に行き呉る。九時四十分販る。此の代金四円也。十時寢床。

昭和14年5月27日（土）

梶沼氏より来翰。資産原簿に登記を了す。安神せり。和筆購入の為、市内に行き二本求め販る。昨注文の饅頭持参、永江氏より風呂敷を借用。野口氏駅まで持行き呉る。此の日晴天。風呂敷甚だ重し。電車及びバスに乗る。列車内にて熊本聯隊に応召の出征軍人あり。東京の人、第二補充にて曩日一度召集せられ、訓練を経たる者の由。応召者は家庭の事情を考慮し、強制的に採用せられざりしものなるに、一人として出征を希望せざる者なく、長男でありながら之を秘し、妻子を有し乍ら係累なしと称し、中には血書して従軍を希望する者ありて、日本兵の勇敢無比、戦って勝たざるなき理由の存する所も爰にありと申し居れり。久子一兩日前より出勤し居ると。須藤義樹氏より急信あり。道子の結婚問題解決を知り、澄子久子に及ぼし媒介越されたるもの。七八年前、二瀬工作課長小林長輔氏（工学士にして昨年夏死去、遺族は目下西の宮市北口に居住。二瀬退職後、満州工廠の重役専務をして居らる）の夫人と近しくして居り、此の二月末上京

の途次一泊したが、その夫人から急に昨夜使いが来て、夫人の末弟で奉天にて機械商をして居る（西の宮北口東犬飼小林秀子方滞在兎島光雄31、奉天円湾奏東ビル四階46号室、機械類取次販売自営。大阪市天王寺中卒後、姉夫妻経営のカルカッタの機械類販売店にて働き、同地のカレッジを卒、英語に巧み小林氏生存中、同氏の世話で満州工廠にて旋盤工場の一主任となり、小林氏死去の後退職、目下店員二名を使傭自営、酒烟系を好む。身長五尺六寸、十五貫）使いに来た人も須藤氏と懇意なる由。澄子は久子を推薦せり。道子も同感らし。折節久子未だ販らず。此日は晩飯りとて其の儘として寢床。

昭和14年5月28日（日）

薄雲漲り、時に陽光を仰ぐ。大掃除して居る家あり。須藤氏に返事出す。三時近く降雨。晝家主にて調製の由。其の後大掃除に移るべしと云ふ。雨少時して歇む。石田千代子及び野口留屋氏に返事出す。薄曇りの儘、推移す。夜可なり冷ゆ。

昭和14年5月29日（月）

昨夜久子中津饅頭代余に支払ふ。須藤氏の手紙を示す、好意を有するものの如し。此日澄子よりも久子希望の旨申出づ。打返し綿出来、二階の押入下段に整頓す。天候昨日同様曇り、北風強し。鯉幟翻翻たり。久子遅出。二郎より葉書。大鰐出張先より「先月の出張で体をこわし、肝臓病にて二週間の絶対安静を過ごしたが、全快して、此の方面に来て居る友達の古溝君が技師になり、福岡に行きました」とあり。此夜蚊二三居り蚊帳吊る。余程吊らぬ積もりなりしが・・・

昭和14年5月30日（火）

昨日同様の天候。朝昼屋来たり、裏返し階下六畳全部、三畳の内二枚、計八枚午前中に終了。うどんやコーヒー等振舞ふ。須藤氏より中津に行く際、廻って呉れと葉書あり。土産が要るので久子に頼む為電話す。3636番は西と冠詞を要することを交換員より注意さる。剃刀研く。夏蜜柑10求め、皆に振舞う積もり。雨少し降り出したるも忽ち歇み、又降る。風強く長降りせず、傘を翳す程でもなし。昼屋は隣家に行き二時間程にて終了。午後四時頃公衆より久子に電話し、明朝飯塚行き土産菓子、販りに持参方依頼す。1,00及び40分二包み持参。理髪。

昭和14年5月31日（水）

午前七時二十分出発。バス一電車一、駅前より徒歩。呉服町飯塚バス待合室に二十五分待ち、八時発車。料金80、九時二十分飯塚片島下車、村田氏宅を訪ふ。嬢さん留守しあり、仏前に額つき経を誦す。菓子一包みを土産とす。十時須藤氏を訪ふ。奥さん留守居す。少時咄して、十時三十分発、新飯塚駅に至る。発車後途中、出征軍人歓送婦人会青年団員等、陸續相続く。再び中央停留所に引返し、十一時半まで約二十分待つ、行橋まで80。行橋にても汽車の連絡悪く、バスにて50中津に向かう。三時過ぎ中津着。局前にて寺尾氏に会す。八幡相談所に就職の由。豊田小学校前に文房具商として、相当の成績を挙げ居りしものと思ひ居たるに、結果は反対なりしやにて、一兩年前店は廃業、八幡に行き居るものの由。四時の汽車にて八幡に出発する趣に付き、見送る入場券は却（かえ）って先方より頂く。此日半晴天なるも風強く、バ

ス内に砂塵侵入、洋服埃に塗る。風呂沸く。